

研究課題名 進行した慢性肝疾患患者における抗ウイルス治療後の血小板数の変化と食道胃静脈瘤の形態変化との関連性の解明に関する情報公開

1. 研究の対象

2003年1月1日から2017年12月31日の間に当院に通院歴のある慢性肝疾患患者の方で、同期間に血液や診療情報が保管されている方。

2. 研究目的・方法・研究期間

慢性肝疾患患者の方は病気が進行すると肝硬変となり、その合併症として血小板数の減少や食道胃静脈瘤が出現します。近年のウイルス性肝炎に対する治療薬の登場により多くの患者さんで肝炎ウイルスの増殖が抑えられ、それに伴い肝炎が治まり、血小板数の増加や食道胃静脈瘤が改善することも報告されています。しかし一部の患者さんにおいて、ウイルス治療後も血小板数の減少や静脈瘤の悪化を認めることがあります。現在食道胃静脈瘤の状態を評価するには上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）が必要になりますが、内視鏡検査は多少の苦痛を伴います。そこで本研究は、ウイルス治療後の血小板数の変化から食道胃静脈瘤の変化を予想できないか検討することを目的としています。

研究期間：実施承認日～2018年12月31日

研究組織：

研究責任者（所属・職名・氏名）

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科・講師・石上雅敏

研究分担者（所属・職名・氏名）

名古屋大学医学部附属病院 消化器内科・病院講師・林和彦

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科学・助教・本多隆

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科学・助教・葛谷貞二

名古屋大学医学部附属病院 消化器内科・病院助教・石津洋二

個人情報管理者

名古屋大学医学部附属病院 消化器内科・病院助教・石津洋二

個人情報管理補助者

名古屋大学医学部附属病院 消化器内科・講師・石上雅敏

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：生年月日、病歴、血球（赤血球、白血球、好中球、リンパ球、血小板）数、肝予備能（総ビリルビン、アルブミン、プロトロンビン時間）、内視鏡画像、腹部超音波・CT・MRI 画像 等

試料：保存血液（過去の臨床研究において、「他の研究における検体の使用」に同意していただいたうえで保存された血液を用いて、血小板数の変化に影響を及ぼすと考えられている因子を測定し、解析を行います）

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

電話番号：052-744-2169

担当者：名古屋大学医学部附属病院 消化器内科 石津洋二

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科 石上雅敏